



吉川友子 後援会報 No 4

平成 25 年 7 月

発行： 吉川友子後援会

 会長 上野昭久
 幹事長 清水千恵子
 事務局長 藤井恵


ご支援ご協力をいただいたみなさま。

大変お世話になりました。今回、初めての選挙ということで、わからないことばかりで、周りのみなさまには御迷惑をかけることも多々あったと思います。結果的にたくさんの方々のご支持をいただき、本当にありがたく、とても感動しました。同時に多くの期待を背負った責任を感じております。これからの議員生活は未知の世界ですが、みなさんの声を大切に、自分のやり遂げたかったことを忘れず、自分のことから取り組んでいきたいと考えています。

母親として、女性として、一市民として、どうしたら私たちの生活が豊かなものになるか、未来を担う子どもたちが誇って「ふるさと」と呼べる佐久市になるか、みなさまと一緒に考え行動していきたいと願っております。

どうか、これからもご指導の程よろしく申し上げます。

佐久市議会議員 吉川友子

御牧原水道の水源変更問題を話し合う

御牧原には小諸市、東御市（旧北御牧村）、佐久市（旧望月町、浅科村）の3市があります。この水道は、昭和40年頃に完成した御牧原用水を主な水源にしています。蓼科の水をサイホンで御牧原台地に揚げている水です。この配水池などが老朽化したため、新たに小諸市の水を水源とする配水計画がつけられ住民に説明がありました。しかし、蓼科の水は軟水ですが小諸の水は硬度が高いという問題もあり、また決定後に説明を受けたという不満もあり、御牧原では大きな問題になりました。



この件は選挙前にお話を伺う機会があり、自分に取り組んできた保育園統合問題と共通する点がいくつかありました。当局は住民のみなさんの質問に誠実に答えていく責任があると考えます。この問題にかかわっている区の方々はあらゆる方向から解決への選択肢を模索しています。関係議員と地元区長さんが何度か集まり、意見交換を続けてきました。この先は住民のみなさんの要望に優先順位をつけて市長・担当部長と話し合っていく予定です。水は私たちの生活に欠かせない資源です。市民の生活を守っていく立場として、市民の願いにより近い方向で解決できるよう努力していきます。



現地を知ることが大切であると考え、私は話し合いの前に御牧原水道の配水池などをまわって職員の説明を聞きました。

所属会派・委員会など

今期佐久市議会は7会派構成でスタートしました。私は「市民の風」に所属し、高橋良衛議員、柳沢潔議員、大井兵夫議員、小山仁志議員と共に活動していくこととなりました。市民の風というのは「常に市民の立場から」をモットーに会派内でも活発な意見交換をし、個々の発言は拘束しないという会派です。

常任委員会では

社会委員会委員として福祉などの分野に取り組んでいます。

特別委員会では

**地域医療問題特別委員会の副委員長、
広報広聴特別委員会委員**（議会だよりの編集など）になりました。

一部事務組合では

**川西保健衛生施設組合議会議員、
小諸市外二市御牧ヶ原水道組合議会議員、
北佐久郡老人福祉施設組合議会議員**
と決まりました。すべて地元の問題や今まで関心を持ってやってきたことに関係しており、勉強しながらですが、一生懸命取り組んでいきたいと思っています。



第二回定例議会一般質問

第二回定例議会が6月3日から27日まで開催され、私は一般質問に登壇しました。

●周辺部の人口減少に積極的な対策が必要

―高校生や高齢者に便利なバス運行を―

(吉川) 望月地区は合併後の8年で人口が9.2%(978人)減少しました。市周辺部の振興は佐久市全体にとっても重要な課題です。望月地区から他地区へ通う高校生は現在151人います(野沢方面へ71人、岩村田方面へ41人、小諸方面へ39人)。この学生たちや高齢者のためにもバスの運行時間や運賃の見直しが必要という声が多いのですが、石川県白山市や高知県大豊町のように過疎債を使って交通手段を確保できないでしょうか。

(答弁) 現在、望月地区からは各方面に毎日運行しています。しかしこれからもニーズを調査し交通手段確保に努めます。また過疎債を使って低運賃のバスを運行している事例を参考に研究していきたい。

●統合保育園の安全対策は充分か

(吉川) 過疎債を使って建設される望月地区統合保育園はどのように過疎緩和になるのでしょうか。そして建設予定地は過去に水害のあったところであり、東日本大震災の時も液状化した場所は過去に田んぼであったり、河川の近くであったりという場合が多かったそうです。さらに南海トラフ巨大地震の被害想定では震源地から遠い内陸部でも液状化の恐れがあるとしています。以前保護者や地元区から提出された懸念事項の水害や液状化、交通面での安全性についてはどのような対策がとられるのでしょうか。

(答弁) 過疎対策としては現在協和保育園に併

設している子育て支援センター、さくらんぼ広場を充実させると共に、基本方針が決定した段階で住民や保護者との話し合いによって地域住民の満足がいく保育園建設が過疎緩和につながるかと考えています。交通安全の確保は保護者会と協議し、送迎時のルールを決めるなどして対応していきます。液状化に関しては設計段階にて考慮したいと考えています。

(吉川) 市長の公約にもある「新しい情報公開」や「安心安全な子育て」においてこの保育園問題には重要な存在であると考えます。住民や保護者の意見も十分に取り入れて過疎債を利用するのにふさわしい特色ある保育園を期待します。



通学路にもなっている天神の道路

●学校・保育園・民間病院の給食

―放射能検査を充実してより安全な食材を―

(吉川) 先日軽井沢のタラの芽から1キロあたり220ベクレル、コシアブラからは610ベクレルと、基準値をはるかに超えるセシウムが検出されました。小諸市では「しめじ」から1キロあたり20.2ベクレル、大分県産の干しシイタケからは38.3ベクレル、放射性物質が検出されたのですが、子供たちが食べた後の発表となってしまうました。現在佐久市で行われている放射能測定の実体はどのような基準で選定されていますか。また佐久市内だけでなく、市外や民間の測定所の結果を給食関係者がすぐに共有できる体制は整っていますか。

(答弁) 検査対象になっている17都県産のものを優先して測定しています。市外や民間の測定所の結果もマスコミで公表されているものを注

視しています。

(吉川) 今は放射性物質が移行しやすい作物がわかってきています。測定時間を長くして、測定の下限値を下げることでできるのではないのでしょうか。

(答弁) 一検体につき測定に20分かかっていますが、下限値を下げることは検体数の制限につながります。できるだけ地元産の安心安全な食材を使い、今後も現状体制で安全な給食を提供できるように努めていきます。

(吉川) 佐久市が現在使っている二つの測定器のうち一つは20〜30分の測定で下限値は1キロあたり10ベクレルまで下げられるとのメーカーからの情報です。どのようにしてより安全な食材を給食に使用するかさらに検討していただきたいです。



食品放射能測定器 テクニーク社 TN300B

●遺伝子組み換え食材を給食では使用しないほしい

(吉川) 日本では遺伝子組み換え食材の混入が5%以下の場合、または使用量4位以下の場合、表示義務がありません。遺伝子組み換え食品を給食食材として使用することについては安全性に不安が多いのですが、このことについてのお考えを聞かせてください。そして表示義務が撤廃された場合の対応体制は整っていますか。

(答弁) 遺伝子組み換え食品に関しては厚生労働省の安全基準に従っています。現在給食では遺伝子組み換え表示食材は使用していません。表示義務が撤廃された場合については国の方針が定まっていらないので判断しかねます。

●佐久市で安心安全な農産物のブランド化を

(吉川) ヨーロッパなどでは遺伝子組み換え食品に対してきわめて厳しい基準をもっています。佐久市は「世界最高健康都市」「安心安全な農産物のブランド化」を市政の中でかかげています。それを具体化する政策として遺伝子組み換え作物は作らない、巨大バイオメーカーに食の支配をさせないと言言し、安心安全な農作物をブランド化して、販路を拡大していくことを提案します。

●市のホームページ上に子育て支援サイトを

(吉川) 子育てには悩みがつきものです。現在子育て中の親は、インターネットでの情報収集が主流となってきました。オンラインでの応募や相談などは気軽に便利です。市のホームページ上に子育て支援サイトを、そして匿名でも相談できるようなオンライン子育て相談窓口の設立をご検討ください。

(答弁) 現在、市では子育てサロンや電話・来庁での相談を実施しています。メールでの相談も受け付けているので、引き続き利用してください。できれば対面での心の通った相談が望ましいです。

(吉川) もちろん対面での相談が理想的ですが、自分の名前や住所が特定できないような相談の仕方を選択したい場合もあります。千葉県松戸市のオンライン相談窓口などを参考に、より充実した子育て支援体制を整えてくださるよう要望します。

